

好き（好く）「好む」と同じ手まね。

スキー 両手にスキーのストックを持って後方に突く身振り。

空腹 五指の指頭を下にさし掌を内側にした両手で腹さすり降す。腹の皮がべちゃんこになった空腹。

過ぎる 「終り」の手まねでは、即ち五指の指頭を前方にさし掌を右側にした左手に向って、五指の指頭を左にさし掌を内側にした右手を直角に接近させ突当らせたのを右手を左手の上を乗り越させると「過ぎる」の手まねとなる。

優れる 左手の五指の指頭を上にし、前向けた掌に、右手の指頭を上にした人差指をつけてから、その人差指を上へすり上げる。左手の五指より、右手の人差指が上に即ち頭角を現わしているということになる。

直ぐ 「既に」と同じ手まね。

少し 掌を上に向けて、中指薬指小指の三



指を折り曲げて、指頭を上にした人差指の先僅か下に、親指の指頭をつける。

人差指の先が僅か（少し）見せている。即ち「僅か」、「少し」である。

すし (イ) 巻きすし、掌を下向け、丸い物を掴むように五指を曲げて左右に両手をならべて、前へ物を巻くようにする。巻きすしを巻く身振り。(ロ) 握りすし、左手の上向け掌の上に右手の人差指と中指をたたき降すと、左手の五指で、その二指を握り次に握った飯の上（左手掌）に看をつける身振り。

鈴 掌を下に向け五指を少し曲げさせた手

を耳もとで左右に振る。

涼しい 「秋」を見よ。

進む (イ) 隊列が進む。「遠足」の手まねを活発に前へ進ませて行く。(ロ) 進む(技術の上達)。「上達」の手まね。(ハ) 文化が進む。「進歩」の回の手まね。

ステッキ 「杖」をつく身振り。

既に 五指の指頭を下にさし掌を内側にだらりと垂れた両手(幽霊の垂れた手)を素速やに左右に振る、「ええ?、もう?」と驚いた身振り。

素的 大へん良いと云う意味なのだから、「良い」の手まねを両手に大袈裟にする。即ち、両手を前後に重ねて、「てんぐ」を更に高く表わす。

ストライキ 「戦う」と同じ手まね。

素直 「正直」と同じ手まね。

凡て 掌を下に向け五指の指頭を前方にさ

した両手を左右につけ合わせ(両手の親指が付く)てから、両手を左右に離し何れも下へ弧を描いて降して行き(自然に両手の掌は上向きになる)再び下で両手を合わせる(両手の小指が付く)即ち両手で一つの全き円を描いたことになり、「凡て」「みんな」となる。

統べる 五指の指頭を前方にさし、掌を下に向けた両手。夫々左右斜め前方にさし出してから、徐々に左右から相寄らしめながら、掌を向い合わせ(右の掌は左側にし、左の掌は右側に向け)それと共に両手の五指を折り曲げて行って最後に握り拳にして、胸の前で上下に重ねる。凡てのものを集め束ねること
迂る (イ) すべすべする。五指の指頭を上
にさしに掌で頬を迂り上げる。(ロ) 迂る。左
の手甲の上を右手の掌をのせ前へ迂り出させ
る。

スボン 両手で一方の脚を円筒形に囲み上